

～ 海外情報 ～

2012年5月10日 全14頁

ASEAN NOW (Vol. 12)

経済調査部
佐藤清一郎

軽工業品中心輸出から抜け出せないベトナム

[要約]

- ベトナム経済の大きな問題の一つは貿易収支赤字が続いていることである。対外面での収支悪化は、消費者物価上昇、株価下落、為替減価といった形で経済に悪い影響を与えている。
- 貿易赤字体質の背景には、安定して外貨を稼げるような輸出品が存在しないことがある。ベトナムの貿易構造を見ると輸出品のほとんどは衣料品等の軽工業品である。軽工業品は人件費の高低に依存する割合が高い。現在、ベトナムより人件費の安いミャンマーやバングラデシュ等でも軽工業品生産が盛んになっており、この点からすると、軽工業品はベトナムが必ずしも比較優位を保てる商品とも言えない。
- 貿易黒字体質へと転換していくためには、主力の輸出品を軽工業品からより付加価値の高い電子部品や輸送機器などに転換させていくことが求められる。そのためには裾野産業を育成してより強固な産業基盤を築いていく必要がある。
- 裾野産業育成は、自国のみでは限界があるため、海外からの直接投資を積極的に活用してノウハウを蓄積していくことがより効率的な方法となることは言うまでもない。ベトナムとしては、引き続き、海外からの投資が行われやすい環境を整備していくことが求められる。

貿易収支の赤字体質続くベトナム

ベトナムは貿易赤字
体質

インドネシア、タイなどアセアンの主要国は、1997年のアジア通貨危機で為替が大幅に減価したことで輸出競争力が回復してそれまでの経常収支赤字体質から経常収支黒字体質へと構造変換を遂げることに成功し今でもそのトレンドを維持している。

しかし、ベトナムに関しては他の国と状況が異なる。即ち、ベトナムは経常収支赤字体質が続いている。特に、2007年1月のWTO加盟前後あたりから貿易赤字が拡大して現在も貿易赤字が続いている状況にある。

一般的に、何もないところから経済発展を模索する国では、先ず、成長に必要な様々なインフラを整備する必要から、海外、特に先進国からの資本財輸入が増加する傾向がある。一方で、設備が整い生産できる体制ができるまでにはそれなりの時間を要する。この間、輸出できる商品がないため、成長初期の段階では構造的に貿易収支赤字になりやすい傾向がある。

ベトナムは、経済成長を目指してから相当の時間が経過しているものの、現状を見ると未だにこの段階にある印象である。

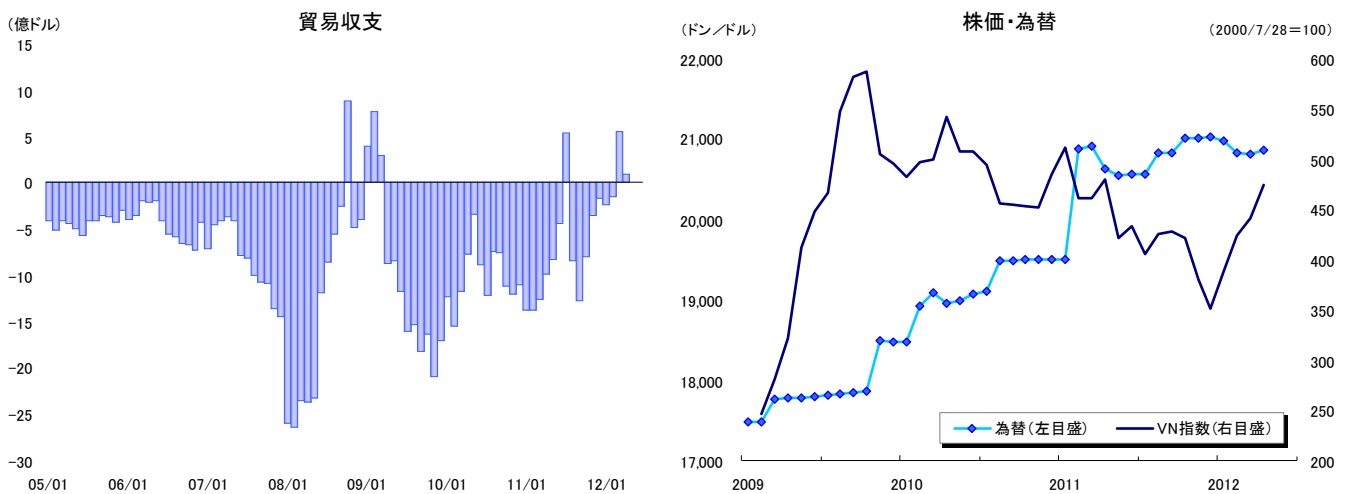
国内経済に悪影響

貿易収支の赤字が続いていることで、為替レートは減価方向を辿っており、これまで幾度となく為替の切り下げが行われてきた。また、貿易赤字拡大というインバランスは国内経済へも悪影響をもたらしている。たとえば、株価の下落や物価上昇といった現象が起きている。結局、株価と為替の推移を見ると、2010年以降、為替は減価、株価は下落という動きが2011年末頃まで続いているのがわかる。まさに、マクロインバランスが引き起こした悪循環が発生している状況となっている。

しかし、昨年後半以降の政府の緊縮政策の効果により、最近では、経済に減速感が見られる。前年比20%超と高い上昇率を示していた消費者物価の上昇も勢いが和らいできている。対外面では輸入が減少して貿易赤字縮小の動きが見られ、これまで幾度となく実施された為替の切り下げは回避された状況となっている。

このような状況変化の中で、今年に入ってから株価の動きを見ると、やや戻す展開となっているのがわかる。とりあえずは、政府の引き締め政策の効果もあり、物価上昇率鈍化や貿易赤字の縮小が実現してきていることが好感されている。

図表 1 ベトナムの貿易収支・株価・為替の動き



出所：Haver Analytics より大和総研作成

ベトナムの貿易構造

戦略的輸出品が乏しい

前述のように、最近、景気減速等もあり貿易赤字拡大に歯止めがかかって、結果として、マクロインバランスの拡大は回避され株価はやや戻した形になっている。しかし、株価の上昇は、ベトナム経済の構造変化を反映したものではないので、この動きをより持続的なものにするには構造転換が求められることは言うまでもない。簡単に言ってしまうと、まず、確実に外貨を稼げる輸出品を増加させる必要がある、そのためには、裾野産業育成を通じて産業基盤を厚くして、そうした製品を製造できる体制を作る必要がある。現状、ベトナムの輸出品構成を見

ると確実に外貨を稼げるような商品が乏しいと言わざるを得ない。

主要な輸出品

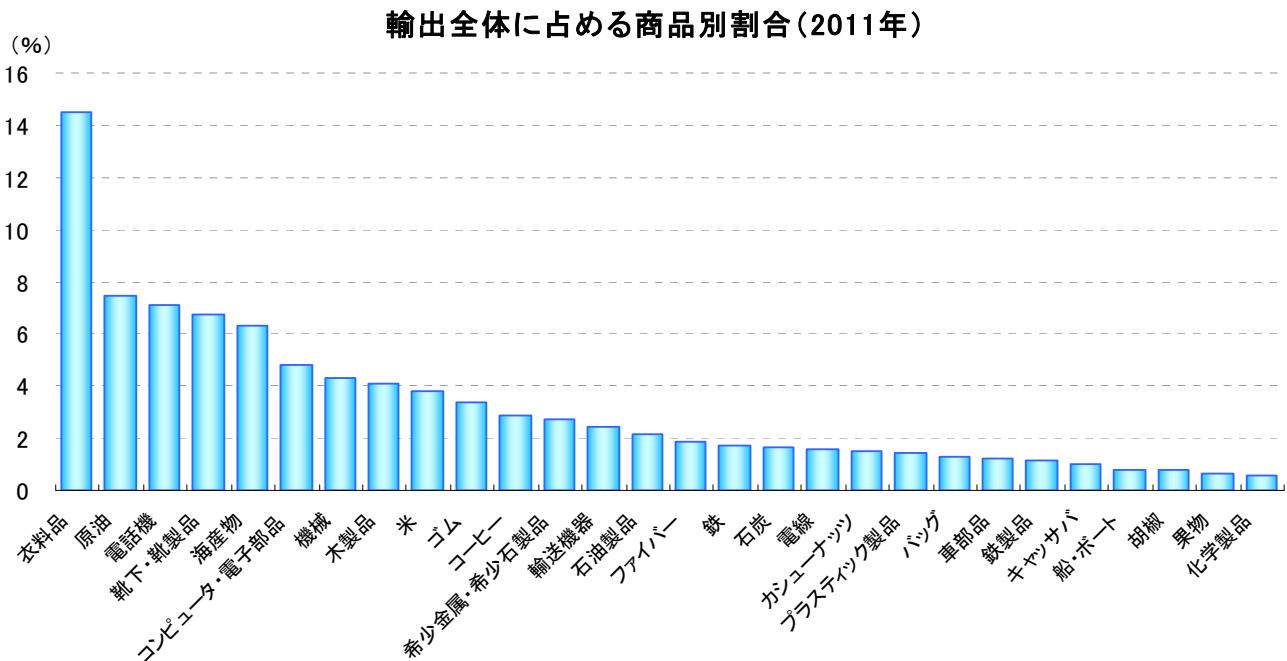
衣料品が主な輸出品

2011年におけるベトナムの輸出を商品別で割合の高い方から見てみると、まず、圧倒的に高い割合なのが衣料品である。割合で見ると、衣料品は輸出品全体の約14%程度を占めている。その後が続くのが、原油、電話機、靴、海産物等となっているが、いずれも割合は8%以下で、衣料品と比較するとかなり低い割合である。

衣料品が主な輸出品であるということはベトナムの貿易赤字を助長している一つの要因である。即ち、衣料品は極めて労働集約的な産業であり、人件費の高低が重要な意味を持つ。ベトナムの人件費は、中国やタイに比べれば安いですが、たとえば、ミャンマーやバングラデシュに比べれば高い。

この点からすると、ベトナムで作られる衣料品は、国際市場で見て必ずしも輸出競争力があるとは言い難い面もある。ベトナムより人件費の安い国との工業化の勝負に勝っていくためには、タイに見られるように電子機械や輸送機器など衣料品よりもより高度な技術が必要な輸出品を増加させなければいけない。しかし残念ながら、現状、そうした製品を主力の輸出品として生産できるほどの産業基盤が整っているとは言い難い。

図表 2 ベトナムの主な輸出品



出所：ベトナム統計局より大和総研作成

地域別輸出入割合

ベトナムの主力輸出品が衣料品だとして、それがどのような国・地域に輸出されているのか、また、輸出のための原材料等をどの国から輸入しているのかを見るために、まず、ベトナムの地域別輸出入割合を見てみよう。

輸出は米国や欧州向けが多い

まず輸出について見てみよう。ベトナムのアセアン域内への輸出割合は 15%である。アセアン平均が 25%程度と思われるので、それよりも低い数値である。次に域外について輸出先構成を見ると、米国と欧州がそれぞれ全体の 18%、次が中国と日本で 12%となっている。ここからすると、ベトナムの主な輸出先は、米国と欧州ということになる。この 2 つの国・地域については、ベトナムが貿易収支黒字となっている。

輸入は中国からが多い

次に輸入について見てみよう。ベトナムのアセアン域内からの輸入割合は輸出割合よりも高く 20%となっている。域外からの輸入割合を見ると、一番大きいのが中国で 24%、次が韓国で 13%となっている。これら 2 国に関しては、輸出割合よりも輸入割合がかなり高いという特徴が見られ、ベトナムは、これら 2 国に対しては、大きく貿易収支赤字の状況となっている。

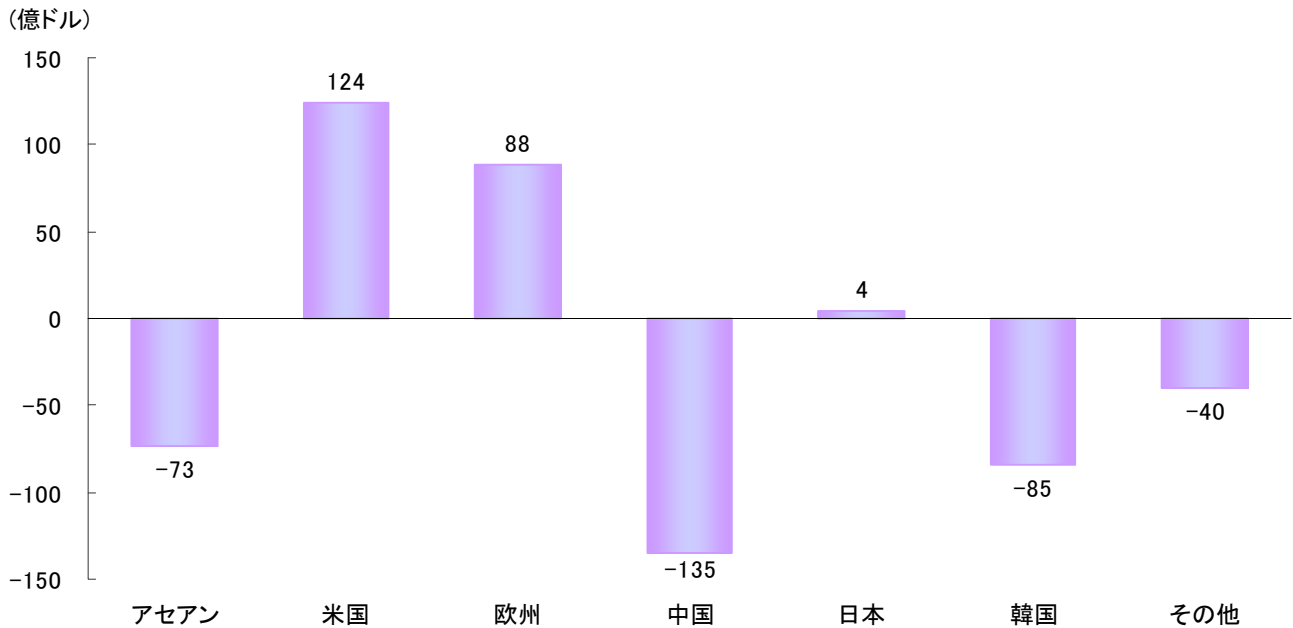
ベトナムの地域別貿易構成を見る限り、輸出に関しては米国や欧州が中心、一方で輸入に関しては中国と韓国が中心という構造になっていることがわかる。日本も、それなりの貿易割合はあるものの、米国、欧州、中国、韓国と比べると、やや見劣りする状況となっている。

図表 3 ベトナムの地域別輸出入割合 (2011 年、%)

	輸出	輸入
アセアン	15	20
米国	18	4
欧州	18	7
中国	12	24
日本	12	10
韓国	5	13
その他	21	22
合計	100	100

出所：ベトナム統計局より大和総研作成

図表 4 ベトナムの地域別貿易収支 (2011 年)



出所：ベトナム統計局より大和総研作成

地域別・商品別輸出入の割合

次に、ベトナムの貿易についてもう少し詳しく見るために、輸出についてはベトナムが大きな黒字を出している米国と欧州について、輸入についてはベトナムが大きな赤字となっている中国と韓国に絞って、その商品構成を見てみよう。

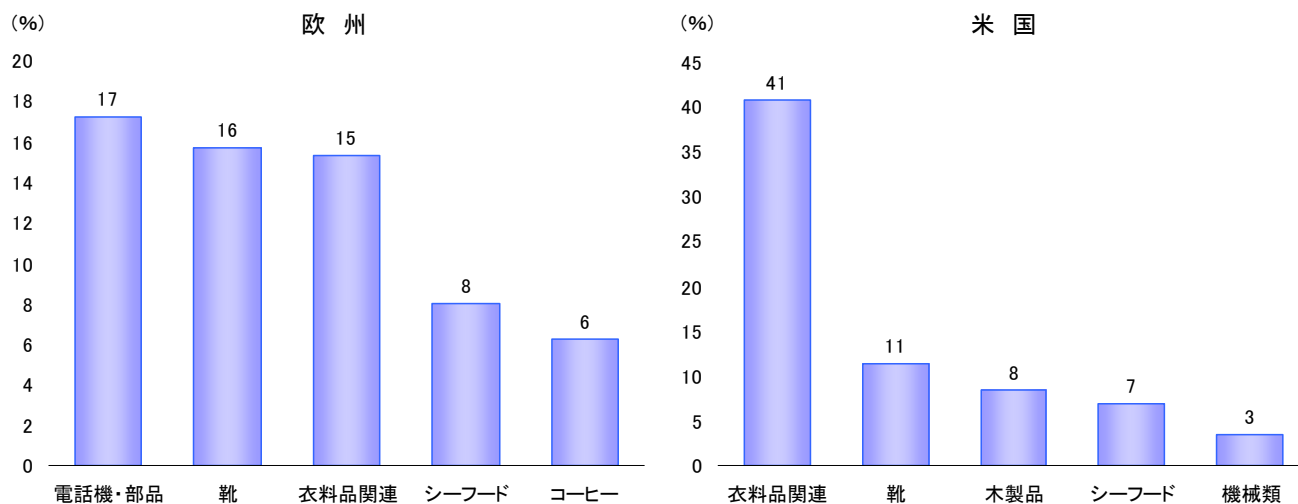
まず輸出について見てみよう。2011年、ベトナムは米国に対して124億ドルの貿易黒字となっている。ベトナムの米国への輸出品の割合を見ると、衣料品関連が全体の41%を占めており圧倒的である。その他では、靴11%、木製品8%、シーフード7%等となっている。いずれも軽工業品ということになる。欧州への輸出品構成を見ると、米国に比べると特定の商品への集中はない。割合が大きい方から、電話機・部品17%、靴16%、衣料品関連15%等となっている。こちらも軽工業品中心の輸出品構成となっている。

次に輸入品構成について見てみよう。前述のように、ベトナムが大きく貿易赤字となっている国は中国と韓国で、その赤字額は、2011年、中国135億ドル、韓国85億ドルとなっている。

このように大きな貿易赤字となっている理由を探るために、中国と韓国の輸入品構成を見てみる。まず中国からの輸入品割合を見ると、機械類・部品21%、織物用糸11%、コンピュータ・電子部品10%等となっている。この構成から見る限り、ベトナムは、中国に進出している欧米等の外国企業の下請けのような仕事をしている面も多いと考えられる。即ち、中国から機械や織物用糸を輸入して、それをベトナムで加工、そして欧米に輸出するという構造である。次に韓国からの輸入品割合を見ると、コンピュータ・電子部品15%、鉄12%、織物用糸10%、機

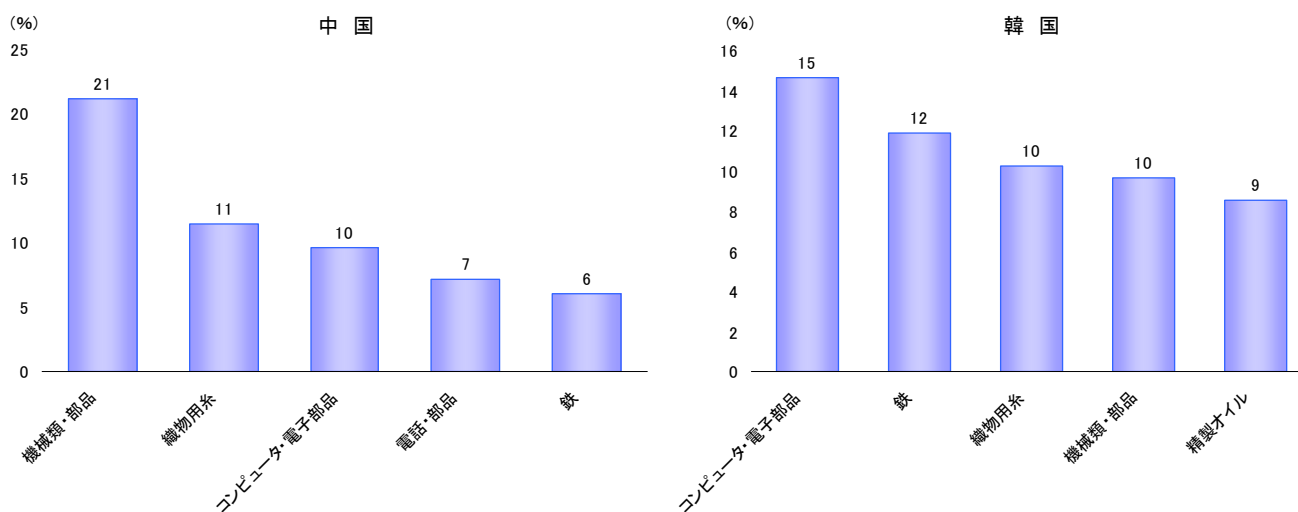
械類・部品 10%等となっている。これからすると、韓国はベトナム市場にコンピュータ・電子部品を売っているようである。中国に比べれば、下請けのような要素は少なそうである。

図表 5 ベトナムの欧米への商品別輸出 (2011年)



出所：ベトナム統計局より大和総研作成

図表 6 ベトナムの中国・韓国からの商品別輸入 (2011年)



出所：ベトナム統計局より大和総研作成

まとめ

ベトナムは、他のアセアン主要国とは異なり貿易収支の赤字体質が続いている。貿易収支の赤字は、物価上昇、株価下落、通貨減価といった形で、経済に悪影響を与えている。

貿易収支赤字の最大の原因は、輸出品が軽工業品中心で、より付加価値の高い製品へのシフトが進展していないことである。軽工業部門は、極めて労働集約型の生産スタイルが多いため、ベトナムの賃金水準を考えたとき、必ずしも、世界市場で比較優位にあるとは言い難い。というのも、ミャンマーやバングラデシュといった、ベトナムより格段に人件費の安い国が衣料品製造を増加させてきているからである。

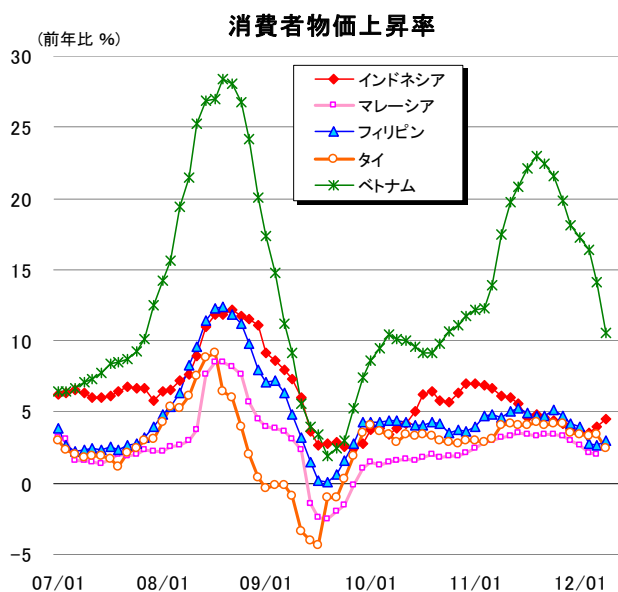
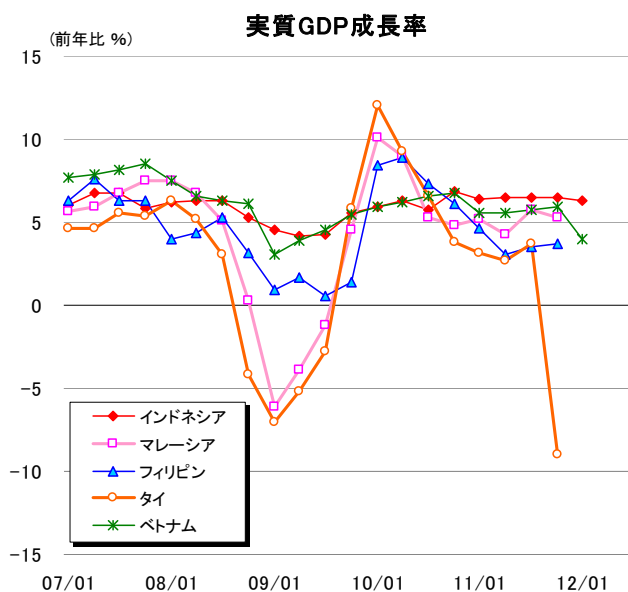
この状況を打開するには、たとえば、タイに見られるように、電子部品や輸送機器といった衣料品と比較して労働集約度合いが小さい産業へのシフトを行い、それを輸出の主力品とすることが求められる。

産業育成には、海外からの直接投資を積極的に活用していくことで、ノウハウを蓄積していくことが求められる。産業基盤拡充には、もちろん自国の努力は重要だが、先行している先進国の技術を積極的に活用していくのが効率的である。ベトナムとして海外からの投資が行われやすい環境を整備していくことが必要である。今後の産業基盤育成で重点となる分野を選定して、その分野への海外からの投資が増加していくように、制度の透明性、手続きの迅速性、免税・減税措置、インフラ整備等を実施していくことが必要である。

このような努力を重ねる過程でベトナムの産業構造が変化してきているかを確認するには、現在の軽工業品中心の輸出品構成にどの程度の変化が見られるかで判断できる。今後、この点を注目していきたい。

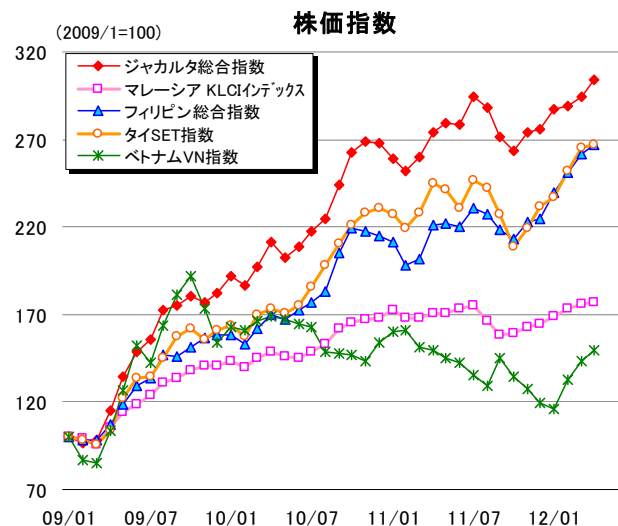
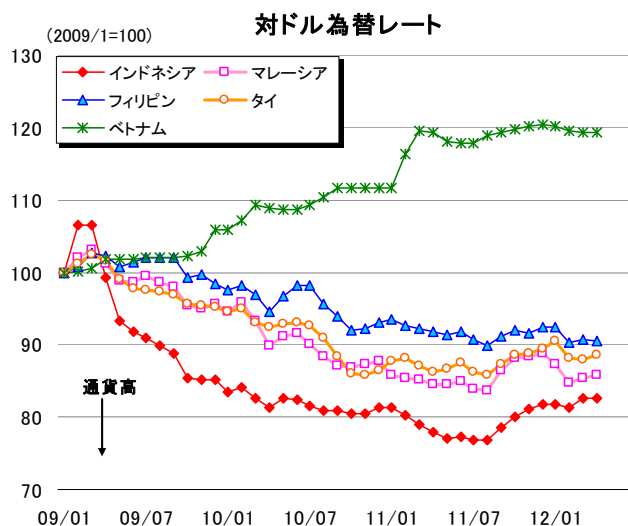
【チャート集】

チャート1 アセアン主要国の実質 GDP 成長率と消費者物価上昇率



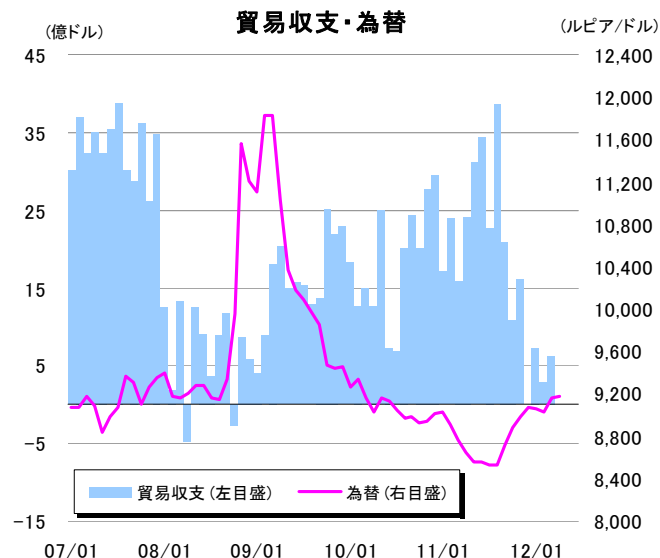
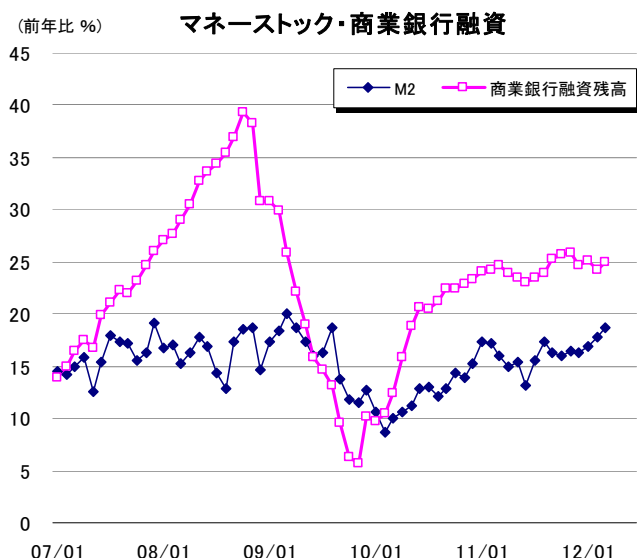
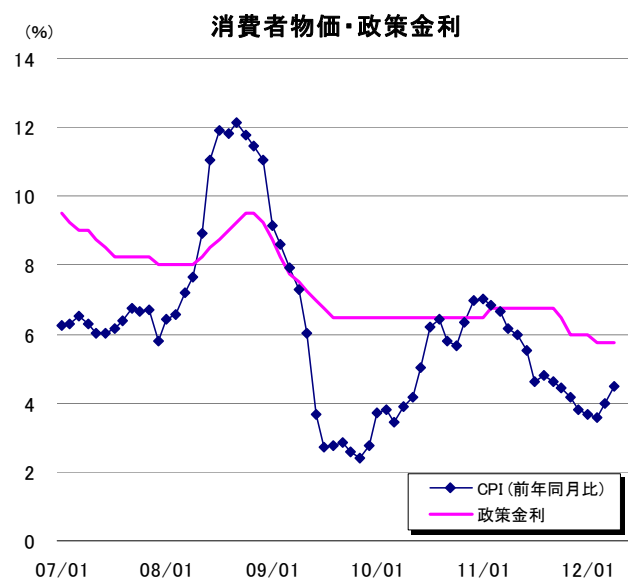
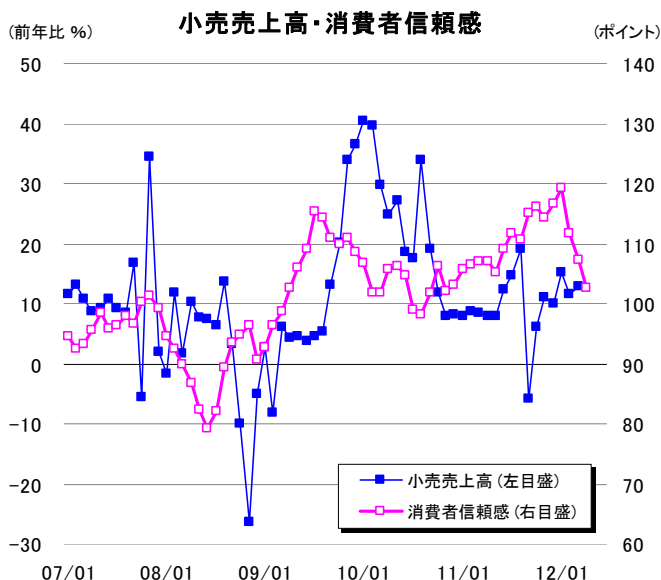
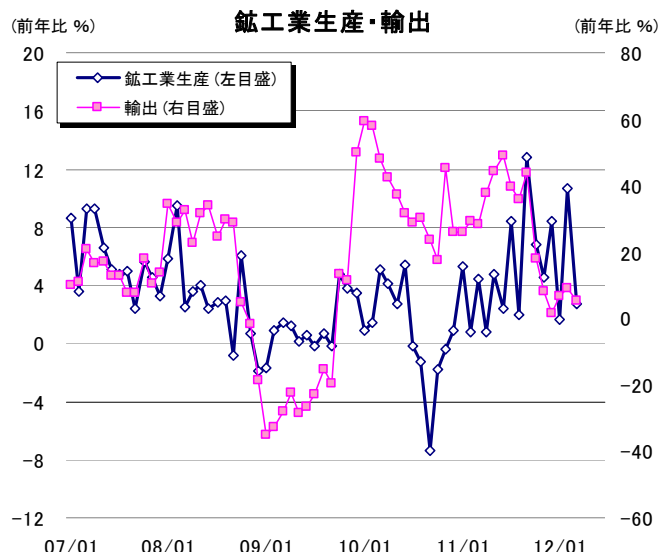
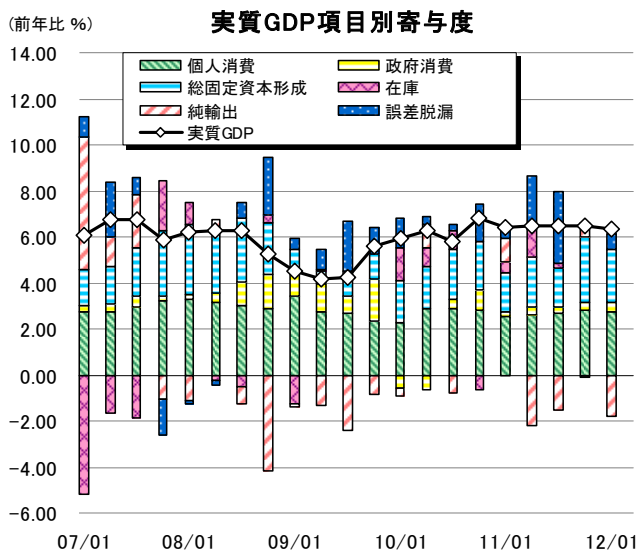
出所 : Haver Analytics より大和総研作成

チャート2 アセアン主要国の為替、株価指数



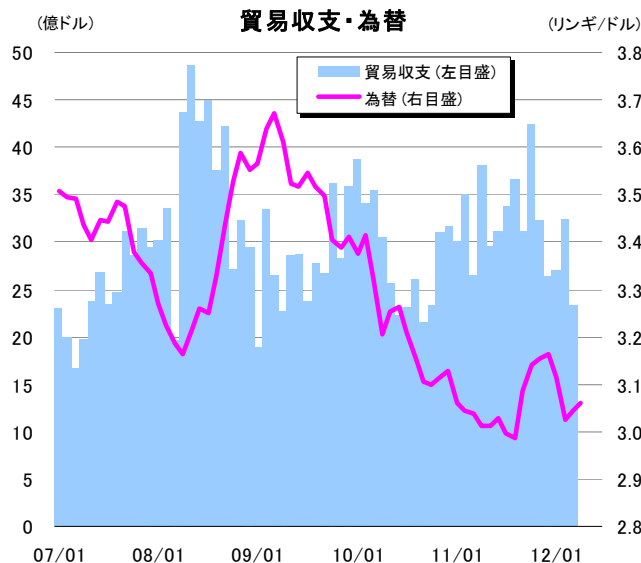
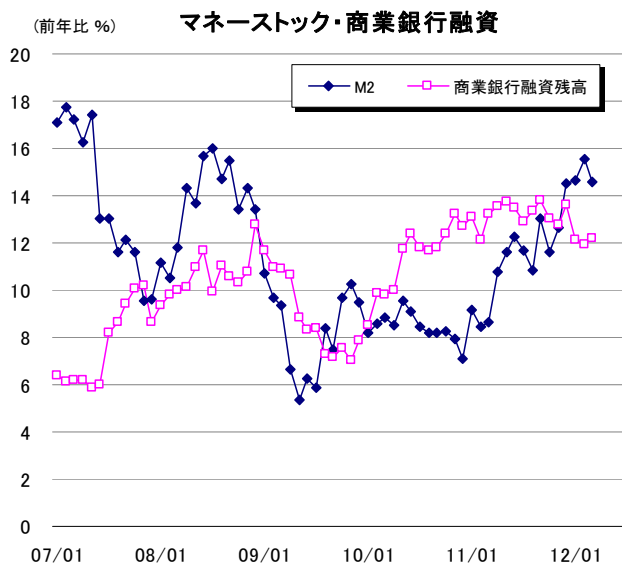
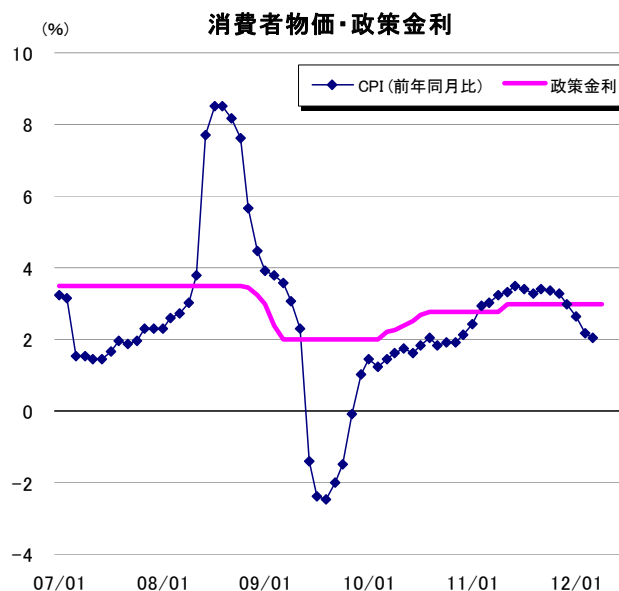
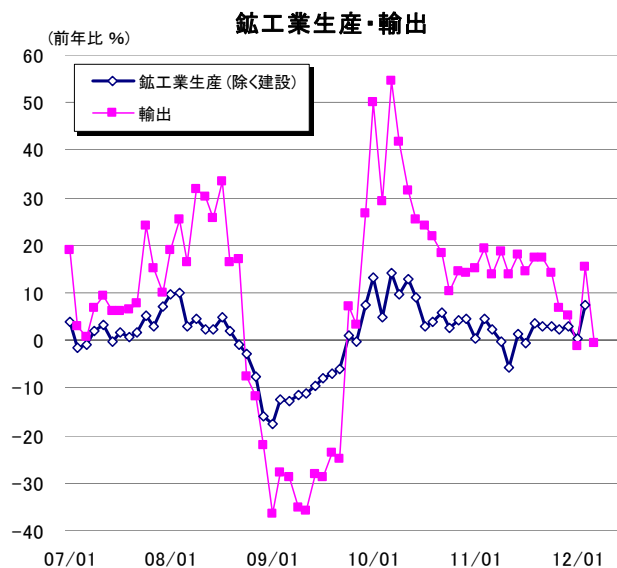
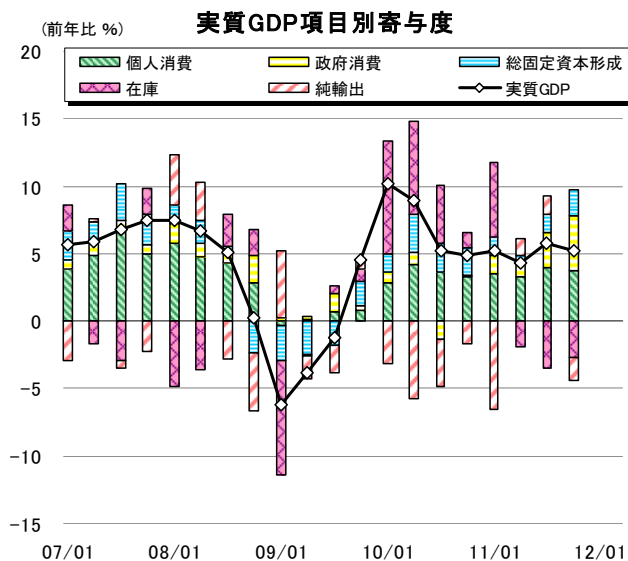
出所 : Haver Analytics より大和総研作成

チャート3 インドネシアの主要経済指標



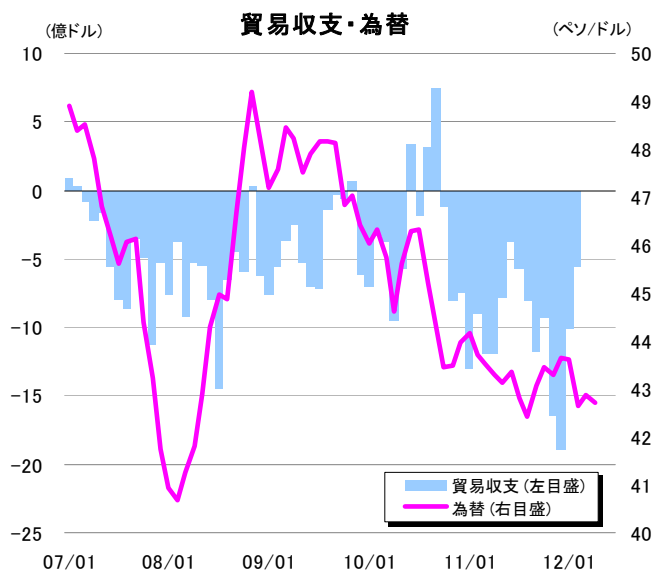
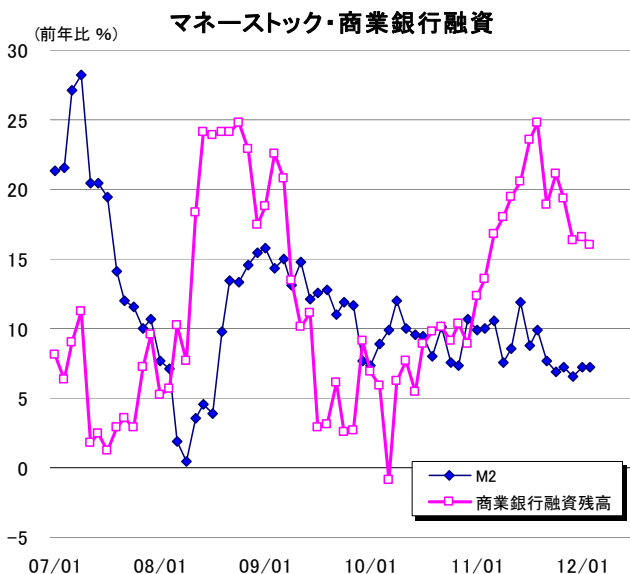
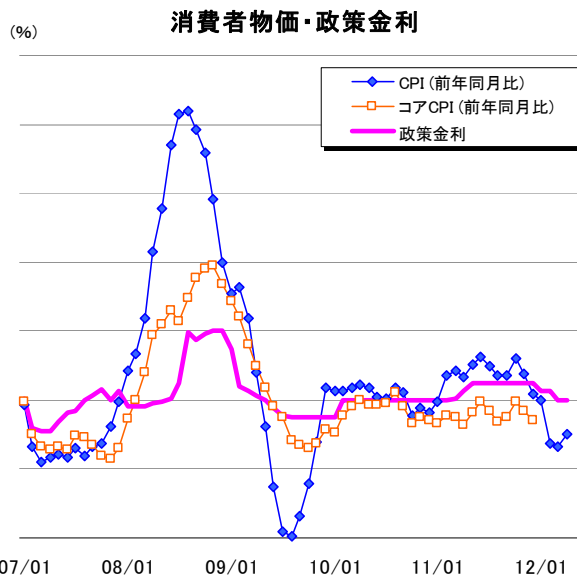
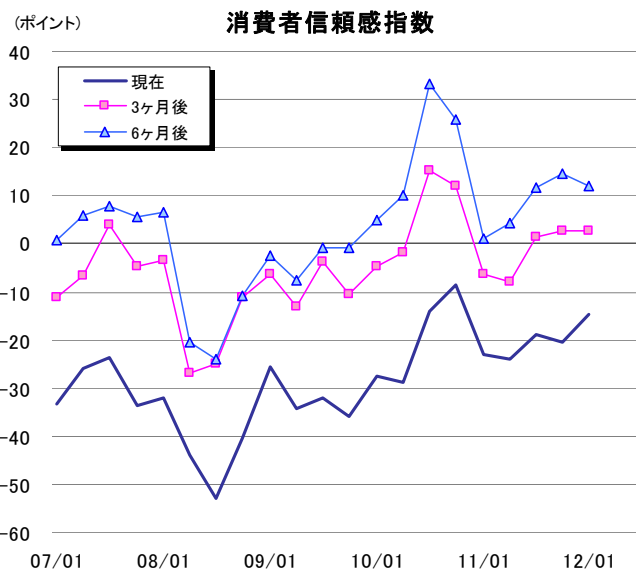
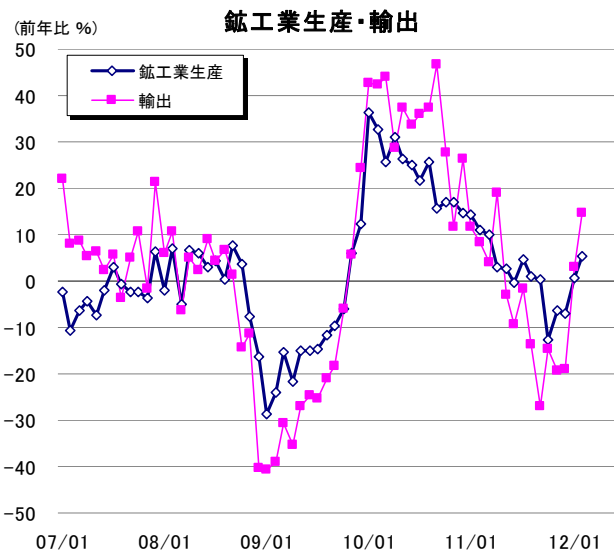
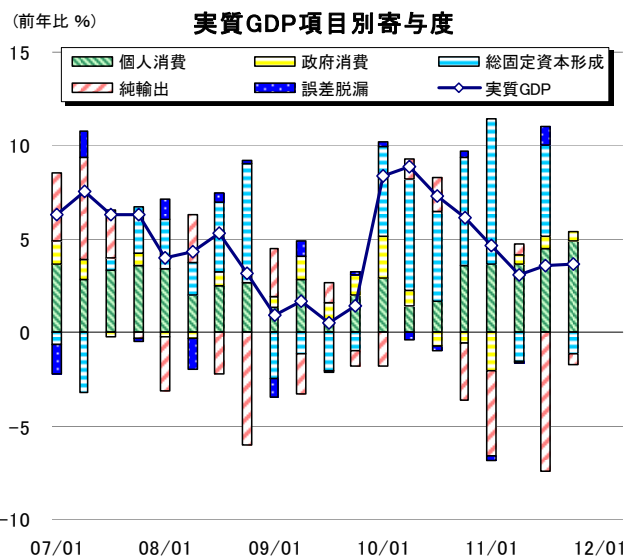
出所 : Haver Analytics より大和総研作成

チャート4 マレーシアの主要経済指標



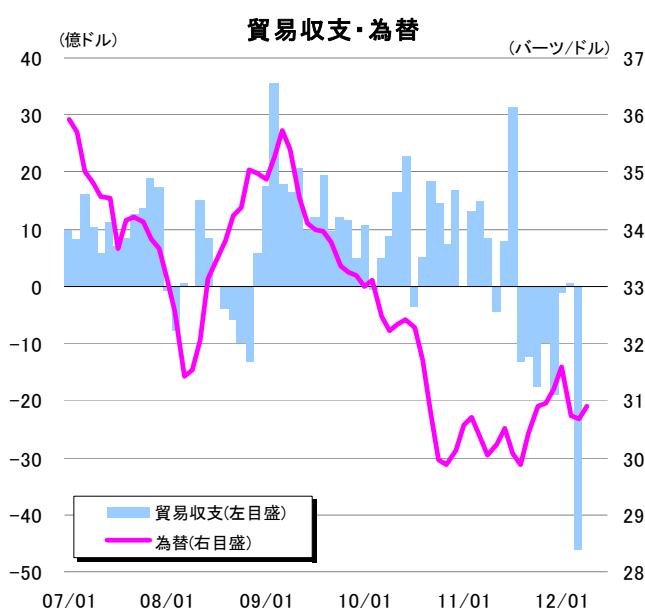
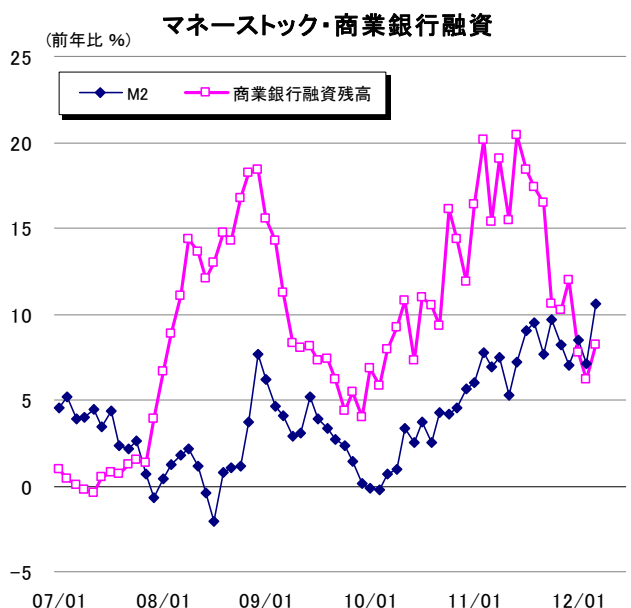
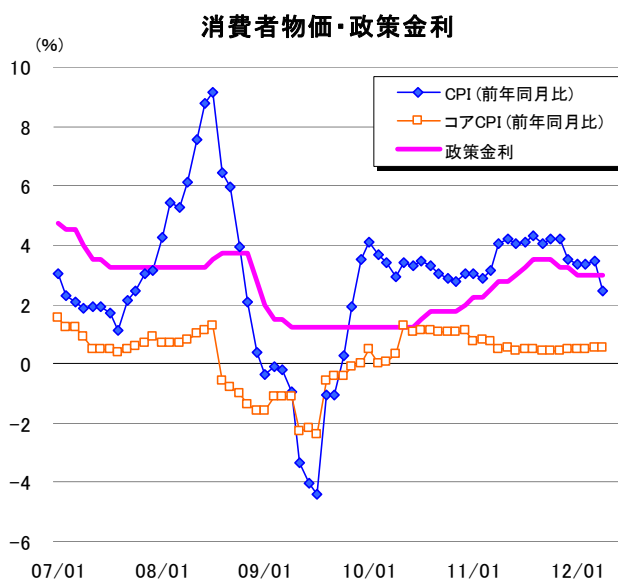
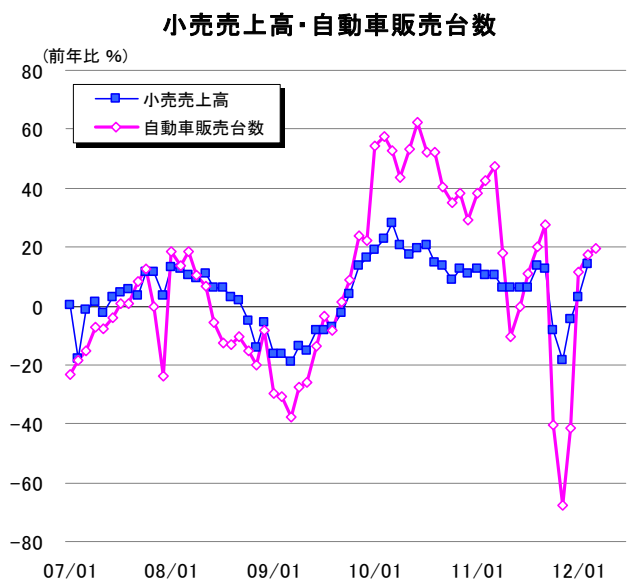
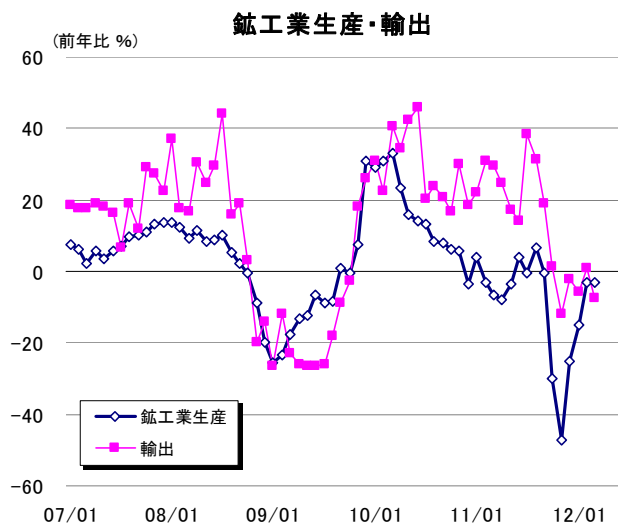
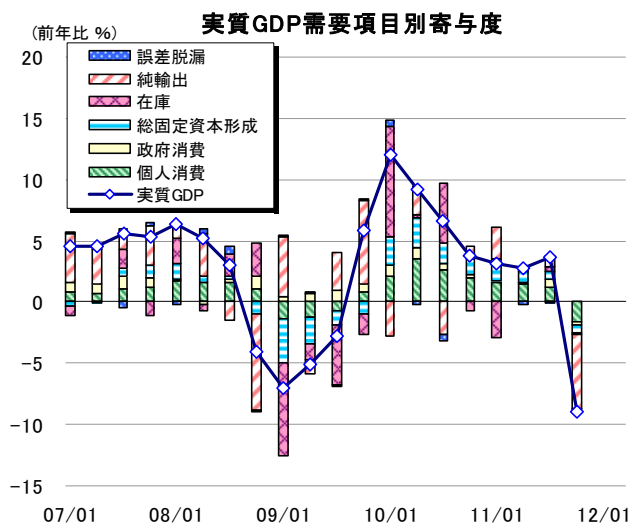
出所：Haver Analytics より大和総研作成

チャート5 フィリピンの主要経済指標



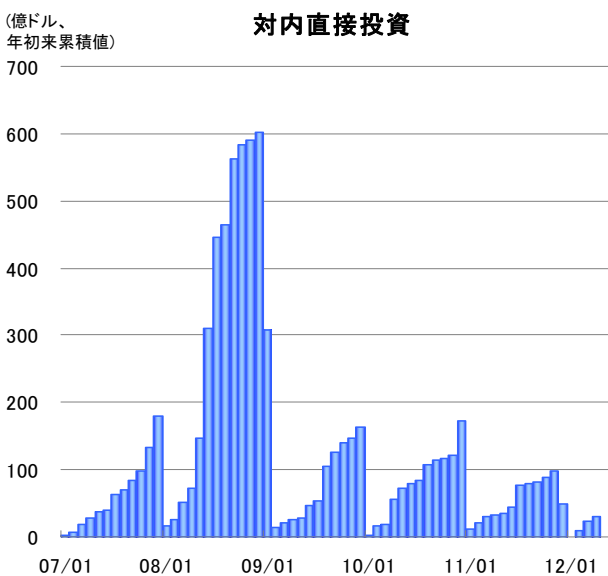
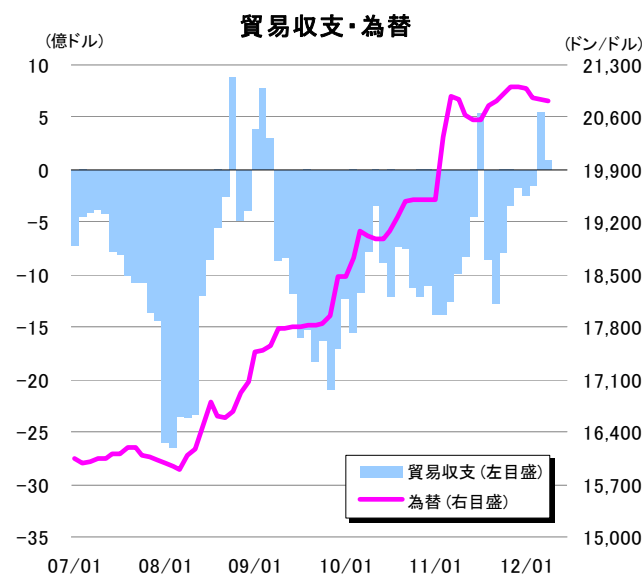
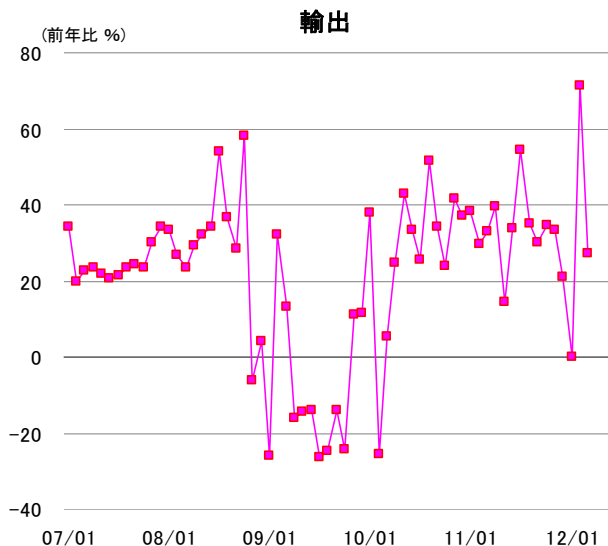
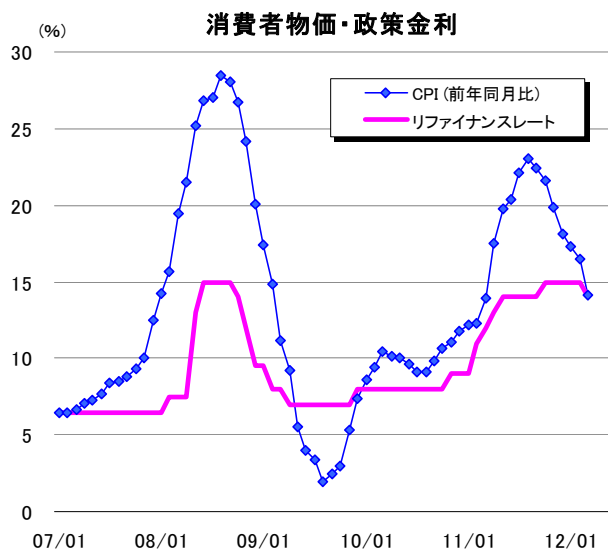
出所:Haver Analytics より大和総研作成

チャート6 タイの主要経済指標



出所 : Haver Analytics より大和総研作成

チャート7 ベトナムの主要経済指標



出所 : Haver Analytics より大和総研作成